

令和2年度 事業計画

近年の大型台風による浸水被害や各地で発生する地震被害に対応するため、国は、国土強靭化を積極的に推進することとしている。

下水道事業においても防災・減災を進める上で、ポンプや貯留施設等下水道施設整備のハード対策や施設の耐震化・耐水化が求められている。

併せて国は、財政困難や少子高齢化をはじめとする下水道の抱える様々な課題に対して、事業の質と効率性の向上を図り下水道の持続と進化を実践する取り組みとして、*i-Gesuido* を推進している。今後は、ICT や AI の活用が不可欠となり、情報の重要性がますます高まって行く。

このため、下水道事業においては国土強靭化の一環としてハード面だけではなくソフト面においても信頼性の高い通信手段により災害時でも確実に伝達できるよう、情報の強靭化が必要となってくる。

当協会では、国の国土強靭化を実現するため、災害に強く下水道事業の ICT の基盤となる下水道光ファイバーの普及を図っていく。

1. 調査研究

(1) 調査研究受託

下水道光ファイバーは、高速・大容量、地震・暴風雨等の災害に強く、自営線のため確実なセキュリティー確保や非常時の他者との利用競合がない等、高品質・高信頼のネットワーク構築が可能で、公共性の高い下水道事業における ICT の根幹をなす基幹インフラである。さらに、水位をはじめとする各種の計測器や光給電機能等を組み合わせた応用技術によって、下水道管理運営への貢献の可能性が広がっている。

調査研究受託は、これら技術の向上と蓄積により、下水道光ファイバーの普及促進を図るための当協会の根幹的な事業であることから、幅広い研究テーマの確保に向け国及び自治体に積極的に働きかける。

2. 業務の普及・拡大

(1) 国への働きかけ

国は、新たな *i-Gesuido* を支える 4 本柱として、従来の「BIM/CIM」、「ストックマネジメント」に加え、「広域管理と運転管理の効率化」と「浸水対策・災害対策に対応するリスクマネジメント」の追加検討を行っている。*i-Gesuido* の進展には通信技術が重要であるため、有線や無線等目的・用途に応じた通信技術を整理するとともに、確実性やセキュリティーに優れる下水道光ファイバーの位置づけの明確化

を働きかけていく。

(2) リスクマネジメントにおける下水道光ファイバーの活用提案

下水道は、住民生活に直結するインフラとして通常時のみならず災害時にも機能の確保が求められる。下水道が対象とする災害リスクには集中豪雨や地震・津波等があり、施設の耐震化・耐水化が進められているが、機能確保には確実な情報伝達が不可欠なため、国の協力を得て、自治体に対し情報強靱化としての下水道光ファイバーの提案活動を行っていく。

(3) 広域管理による自治体の下水道事業経営効率化に向けた提案

自治体の限られた財政事情や職員の減少という厳しい状況の中、ICTを活用した下水道事業の効率化等が求められている。

当協会では、効率的な施設運営の一環として下水道光ファイバーによる複数施設の広域管理を、設立当初から提案して普及活動を行ってきたところであるが、今回 *i-Gesuido* の新たな施策として広域管理や運転管理の効率化の追加検討が行われていることを受け、国の協力を得ながら、自治体への提案活動をさらに積極的に行っていく。

3. 広報

(1) 「下水道展 2020 大阪」について

今後の普及の足がかりとなるよう、テーマ設定・展示内容の精査を行い、下水道展に出展する。

(2) 機関誌の発刊

令和 2 年度のトピックなどを題材に SOFTA44 号の発刊を行う。

(3) ホームページについて

当協会と下水道光ファイバーの PR を推進するため、デザインやレイアウトを改善して見やすい画面を構築すると共に新たな取り組みの紹介や陳腐化した記事の見直し等のコンテンツのアップデートにより、ホームページの刷新を図る。

併せて、近年セキュリティーの脆弱性を攻撃され、当該事業者ばかりでなくネットワークを介して関連事業者にも情報漏洩等の被害が発生していることを考慮し、暗号化通信方式の採用やファイヤーウォールの設置によりセキュリティーの向上を図る。

4. 技術の普及・向上

技術の普及・向上のため、技術講習会を開催する。